MERI Japan News

メリジャパンニュース
平成22年11月25日発行 VOL.3 no.1

The Human 識者に聞く

札幌医科大学では、メリジャパン設立以前の2003年から先駆的に献体を用いたトレーニングに取り組んでいます。それは医療界での、ある事件がきっかけとなってスタートしました。今回は、医療界の問題に真摯に取り組み、メリジャパンの理事でもある札幌医科大学の辰巳教授にお話をうかがいました。

医師を取り巻くトレーニングの現状と、法改正への期待

札幌医科大学大学院解剖学第一講座教授
医学博士 辰巳治之

1956年 大阪市生まれ／1982年 山形大学医学部卒業／1989年 札幌医科大学解剖学助教授／1995年より現職／現在、NPO法人 北海道地域ネットワーク協議会（NORTH）会長、NPO法人 日本インターネット医療協議会（JIMA）理事長、NPO法人 日本医療情報ネットワーク協会（JAMINA）副理事長 兼務

医師のおかれている現状と献体を用いたサージカル・トレーニング

札幌医科大学では、2003年から献体を用いたサージカル・トレーニング（医師・医療者の技術トレーニングのこと。以下キャダバー・トレーニング）を開始しました。そのきっかけとなったのは、2002年におこったある大学病院での事件。経験のない医師が指導医のいない状況下で難易度の高い手術を行い、患者を死亡させてしまったのです。病院の体制や医師のモラルが問われる大変な問題ではありますが、背景には医師が患者で練習するしかない現状、という問題もあるのではないでしょうか。

一般に医師が練習を積む手段として、シミュレータや実験動物が挙げられます。本来は実際の手術の前に、献体のような「人体」で練習を積むことが望ましいのですが、現在の日本の法律では、献体使用は、学生の解剖実習に限られているのです。そのため、上手な医師の手術を横で見ながら勉強し、初めての手術は"患者で練習"という事態が起こります。

行政解釈と他人任せの姿勢で進まない法改正

国は『献体法』に照らし合わせて、「学生以外である医師が献体をトレーニングに使用するのは違法である」という見解です。一方で、経験のない医師による初めての手術で、実質患者が練習台になるという現状については「（医学を）勉強していれば、経験なしで手術をしても構わない」ということなのです。

また、医療界の中では、現場の医師の誰もが献体を使いたがっているはずなのに「誰かが実施できるよう動いてくれるだろう」という人ばかり。その上の先生たちも、キャダバー・トレーニングについて、積極的に取り入れようという姿勢はありませんでした。しかし、上達し、失敗を無くすには、練習をすることが一番の近道。そこで、医師が少しでも多く練習できるよう、札幌医科大学ではキャダバー・トレーニングに踏み切ったのです。

「良い医師を育てて欲しい」という献体団体の願い

幸い、札幌医科大学の篤志献体団体『白菊会』には、私たちの考えに賛同していただける方がたくさんいて、「良い医師を育てるために献体を使って欲しい」と言ってくださいます。本来、献体はご本人の承諾のみで可能なのですが、後々問題が起こらないよう、私たちはご家族やご親戚からも、ご本人の生前・死後、そして献体を学生ではなく医師が使ってもよいか、他県の人に使っていただいてもよいかなど、複数の承諾書をいただいています。そのなかで一人でも反対があれば、ご遺体を引き取ることはしません。

法改正後からが、真のスタート

我々札幌医大、メリジャパン、篤志献体団体など多くの方々の活動が実を結び、いよいよ来年は献体法に大きな動きがありそうな気配です。法改正が認められたら、スムーズに動き出せるよう、しっかりとしたシステム作りをしておかなければいけません。たとえば、予算の受け皿作り、献体団体の意思統一、献体の使い方、医師の育て方など。

またマスコミにセンセーショナルに書き立てられ、真の課題や問題点が見えなくなることもあります。一般市民の皆さんは、間違った情報に煽られず、正しい情報で正しい判断ができるようになってください。

MERI Japan市民フォーラムが開催されました。

各分野の第一人者である先生方の講演

9月5日(日)、名古屋市東区の中電ホールにて、メリジャパン市民フォーラム「安全・安心な最先端治療について考える」が開催されました。

講師には、消化器外科、脳神経外科、歯科、整形外科にて最先端医療に携わる先生方と、医療問題に詳しい弁護士をお招きしました。当日は最高気温36℃という暑さの中、約230名の方が参加してくださいました。

プログラムの第一部は、基調講演「私の分野での最先端医療技術」。最先端医療の第一線にいる先生方が日頃どのような医療技術を駆使し、その技術をどのように習得したのか、また後進にその技術を指導するために必要なトレーニング方法について、スライドや実際の手術時のビデオなどを使い、一般の参加者にもわかりやすく説明してくださいました。また弁護士の北口先生からは最先端医療を安全に普及させるためには何が必要なのか、法律的視点からお話いただきました。

少しずつ浸透しているメリジャパンの活動

第二部はパネルディスカッション。現在メリジャパンが取り組んでいる、日本国内での医療者のためのキャダバー・トレーニング実現という問題が話題の中心となり、「日本の役所は、やりたいことは法律の解釈で行えるようにするが、やりたくないことは法律を改正しないと行えない、つまり解釈をさせないという使い分けをする」、「現にトレーニングが必要なのは明確なのだから、法改正をするのではなくトレーニングの許可をもらえばよいのでは」など、国の法整備や法解釈に関する活発な議論が行われました。

また医療界の動向については、メリジャパンが設立された2004年当時は医療界全体でも意思統一が図れず、大学病院の医学部などに協力要請しても理解が得られないこともありました。しかし6年経った現在では、「国内で医療者へのキャダバー・トレーニングが必要である」という意見で足並みが揃いつつあるようです。これも我々メリジャパンの活動の成果のひとつと言えるのではないかと思います。

最後の質疑応答では、会場より自身の入院体験に基づいた疑問や、国の政策に対する疑問、また「キャダバー・トレーニングの利点を、経済効果等も含めて世の中に対してわかりやすく訴えること、実際どのようにして行うかを具体的に提示してもよいのでは」というご意見もいただき、市民のみなさんの医療に対する問題意識の高さが伺えました。

今後もこのようなフォーラムを開催していく予定です。今回残念ながら参加できなかったみなさんは、次回の開催をお待ちください。

講師・パネリスト・コーディネーターご紹介

●講演講師・パネリスト

宇山　一朗(うやま いちろう)
藤田保健衛生大学医学部　上部消化管外科　教授
腹腔鏡手術が日本で開始された直後より実践を積み、日本初の胃がんに対しての内視鏡胃全摘手術を成功させる。

大畑　建治(おおはた けんじ)
大阪市立大学医学部脳神経外科　教授
脳腫瘍の中でも特に難易度が高いといわれる頭蓋底部分の手術において国内第一人者とされる。

小野寺　良修(おのでら よしのぶ)
小野寺歯科　院長
1988年に名古屋市にて開業後、「総合歯科治療計画」に基づいた治療、歯科インプラント(人工歯根)治療等を行っている。

蜂谷　裕道(はちや ゆうどう)
はちや整形外科病院　院長、NPO法人メリジャパン理事長
整形外科専門医として、低侵襲での膝・股関節再建術や脊椎手術を数多く行い、後進の指導にあたっている。

北口　雅章(きたぐち まさあき)
弁護士、北口雅章法律事務所　所長
1998年北口雅章法律事務所を開業し、医療事故を中心に多くの裁判を担当している。

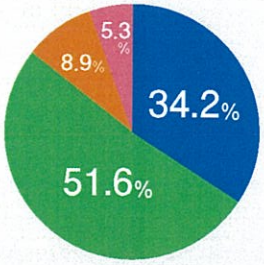
●コーディネーター

大塚　耕平(おおつか こうへい)
前内閣府副大臣、参議院議員
国会では医療問題にも取り組んでおり、日本整形外科勤務医会顧問も務める。2010年9月まで内閣府副大臣。

市民フォーラム来場者アンケート

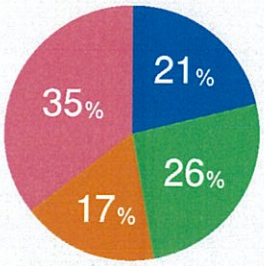
フォーラム会場では、来場者のみなさまにアンケートへのご協力をお願いしました。
今後の活動の参考になる貴重なご意見を、幅広い世代から頂戴しました。一部をご紹介いたします。

Q:日本では献体が医療技術のトレーニングや研究・開発の目的で用いられていないことを知っていましたか?



77名 …知っていた
116名 …知らなかった
20名 …"献体"を知らなかった
12名 …未回答

Q:あなた自身の献体をお考えになりますか?



47名 …医療技術研修・研究開発に活かされるのであれば献体してもよい
57名 …医療技術研修・研究開発と医学生の教育どちらかに活かされるのであれば献体してもよい
39名 …献体はしたくない
78名 …未回答

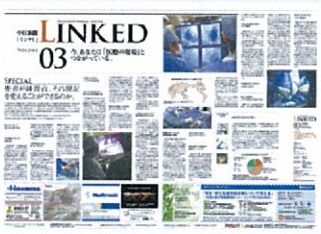
感想

- 近頃臓器提供が問題になっていますが、献体という言葉をもっと広げていただきたいと思います。(60代・男性)
- トレーニングが必要なことは議論の余地はないため、トレーニングが出来るような体制にするにはどういうやり方がベストなのかをより深く議論すべきと考える。(50代・男性)
- 入会した献体者達は今後、政府・医療者・市民にどう問いかければ問題解決できるのか?具体的に表現してもらいたい。(60代・女性)
- 日本人は献体について宗教観が独特なのか一般的にはタブー視する傾向があるのではないかと思っていました。しかし、今日の先生方のお話を聞いてこれからの医療の発達には献体を使った技術研修・研究開発は絶対に必要不可欠なものだと思いました。誰でも技術が高い医師に治療していただきたいと思います。一日も早い法改正を望みます。(50代)
- 公務員として医療関連の業務に携わっているが日本の医療現場の改善に向けた議論を高めるために全国でこの様な市民フォーラムを継続して開催してほしい。(30代)

メリジャパンの取り組みが、中日新聞〈LINKED〉日本経済新聞で紹介されました。

〈LINKED〉(リンクト)とは、生活者と医療機関の新しい関係づくりへの貢献をめざし、中日新聞社広告局医療プロジェクトチームと医療機関の広報企画専門会社、医療機関、医療関連企業・団体などが協力して今日の医療の抱える光と影を正確に捉え、読者に解りやすく紹介する新しいメディアです。朝刊に不定期で特集されており、メリジャパンの活動はLINKED Vol.3「患者が練習台。その現状を変えることができるのか。」というタイトルのもと、9月3日の名古屋市全域に配布された朝刊に掲載されました。献体を用いた医師の臨床トレーニングの必要性、それを実施するためのさまざまな課題、献体提供希望者の願い、そして実現のための私たちの取り組みなどが見開き2ページに渡り紹介されています。

多くの方々にあまり知られていない医師のトレーニングの実態と問題点に触れ、さらに私どもの活動について理解していただき、自らの問題として考えていただくよい機会となれば幸いです。



※「LINKED」のバックナンバーは、インターネットで閲覧することができますので、ぜひ一度ご覧ください。

ホームページアドレス
http://www.project-linked.jp/

10月27日の日本経済新聞に献体登録者急増に関する記事が掲載されました。そこには「医学の発展に貢献したい」という主旨とは異なる「孤立した高齢者の納骨希望」という背景があり、病院・大学側が遺体収容数の限度などから受け入れ制限せざるをえない現状を伝えています。その中で、医学生の解剖実習にとどまっている献体利用を、医師のトレーニングへの使用を認可するよう国に働き掛けている団体としてメリジャパンが紹介されています。

医療を育てる活動の輪に、あなたもご参加ください。

日本の医療技術の習得や開発は、私たちの、未来の日本のためのものです。外国の施設や善意にいつまでも頼るのではなく、医療の質と安全については、日本国民自らが負うべきではないでしょうか。メリジャパンの趣旨にご賛同いただける方は、寄付、または会員登録、署名など募集していますので、ぜひご協力ください。お問い合わせをお待ちしています。

◆ 会員の種別

会員の種別	特　徴	年会費
正会員	総会議決権を持つ会員です。 運営にも積極的に関わっていただきます。	個人会員　¥5,000 法人会員 ¥10,000
賛助会員	総会の議決権はありません。 活動を支援してくださる方が対象です。	個人会員　¥3,000 法人会員　¥5,000

※正会員・賛助会員ともに入会金は不要です。

医療を育てるワンコイン募金

医療事故や医療過誤をなくし、高度な医療技術の普及をめざすメリジャパンの活動を推進していくための募金を行っています。みなさんが、そしてご家族がより安全に高度な医療を安心して受けられるよう、日本の医療の質と安全性の向上をめざす活動を、みなさんの手で実らせてください。

募金方法

1 電話、FAXまたはE-mailで、
1. お名前 2. ご住所 3. 電話番号をお知らせください。
募金いただいた方には、活動報告を送付いたします。

・電　話:052-380-5213
・F A X:052-751-8169
・E-mail:meri_info@hachiya.or.jp

※いただきました個人情報は領収書、活動報告などの送付に使用し、それ以外の目的には使用いたしません。
※振込手数料はご負担いただきますようお願いいたします。
※法人での募金をご希望の方は事務局までご相談ください。

2 1口500円（個人の方のみ。口数制限はありません）を下記いずれかの口座にお振込ください。

・名古屋銀行　覚王山支店　普通3312469
口座名:トクヒ）メリジャパン
・三菱東京UFJ銀行　覚王山支店　普通0015826
口座名:トクヒ）メリジャパン
・ゆうちょ銀行　12140　89381881
（他行からお振込の場合は、
ゆうちょ銀行　218支店　普通8938188）
口座名:トクヒ）メリジャパン

9月の市民フォーラムを機に開始いたしましたワンコイン募金ですが、11月20日現在で51,800円のご寄付をいただきました。9月5日のMERI市民フォーラムにご参加のみなさま、後日振込にてご協力くださった方々、また岐阜県郡上市にて開催されました健康講演会にご参加のみなさま、本当にありがとうございました。

編集後記

市民フォーラムに、たくさんの方のご参加をいただき、ありがとうございました。当日は会場で、メリジャパンの活動を推進していくための『医療を育てるワンコイン募金』を実施しました。予想を超える多くの方々から、募金とともに、共感や励ましの温かいお言葉とご好意を受け取ることができました。なかには、後日に振込んでくださった方も。このフォーラムで、私たちの活動が、多くの方々に支えられていることを実感し、また、活動を続けていくうえでの大きなはげみとなりました。(K)

MERI Japan

●お問い合わせ先
特定非営利活動法人メリジャパン
〒464-0821名古屋市千種区末盛通2-4　はちや整形外科病院内
電話052-380-5213 E-mail meri_info@hachiya.or.jp
URL http://www.merijapan.org